



# 南町小だより

練馬区立南町小学校

令和5年 1月31日

校長 星 美 登 里

つよく かしく あたたかく  
～ ありがとうを とどけます ～



真剣な表情で書きぞめに臨みました

## 書きぞめ展に思う

～～教育活動の一場面での成長過程～～

校長 星 美 登 里

今年の冬は季節が進んだかと思えば、逆戻りの日々もあり、寒暖差が大きいです。こうして春が少しずつ近づいているのでしょうか。

1月の土曜授業公開では、多くの保護者の皆様にご参観いただき、ありがとうございました。子どもたちの学校での様子はいかがでしたでしょうか。また、短期間ではございましたが、校内書きぞめ展を開催しました。ご来校くださった皆様に感謝申し上げます。

学校での「書きぞめ」の時間は、みんな真剣に集中して取り組んでいました。1年生は、小学校に入学した頃の頃、机の上に貼ってあったひらがなの自分の名前を見ながら、とても丁寧に書いていました。でもその時は、机の上のお手本とは程遠いかわいらしい文字でした。それから、一文字一文字ひらがなや漢字を習ってきました。鉛筆（硬筆）にも慣れ、その成果が表れた作品でした。2年生は、同じ硬筆でも1年生よりも画数が多い漢字を、間違えないようにお手本を一字一字よく見ながら書いていました。3年生は、初めての毛筆での書きぞめで書きぞめ用紙に「友だち」と、元気よく書いていました。自分の名前も小筆で書きました。4年生は、毛筆の扱いにも慣れてきたところで、バランスよく「明るい心」を書いていました。「る」や「心」は難しかったと思いますが、練習の跡が見えました。5年生の「新しい風」は、画数が多く、特に「風」は「そり」と「はね」の筆使いが難しい漢字でしたが集中して練習し、力強く書いていました。6年生は「将来の夢」と書きました。4文字中3文字が難しい漢字です。字形や筆使いだけでなく、全体のバランスにも気を付けていて、小学校の毛筆の総まとめとして堂々とした作品になりました。このように全学年の作品を通して鑑賞すると、一人一人の子どもの成長だけでなく、学年に応じた発達段階としての成長を感じることができるのです。

校内書きぞめ展にお子さんと一緒にいらした方と少しお話をしました。1年生から6年生まですべての作品をご覧になったそうです。「1年生を最初に見て、とても上手だと思ったのですが、学年が上がるにつれてどんどん上手になっていって驚きました。私の子も6年生になったらこんなに上手に書けるのかと楽しみにもなり、心配にもなりました。」書きぞめの作品を通して、お子さんの今後の成長過程が少しでも描けたのではないのでしょうか。

今回は、書写の「書きぞめ」という教育活動の一場面についての成長過程をご覧いただきましたが、子どもたちは、小学校6年間の教育活動における様々な場面でこのように成長を続けています。先日、1年生は近隣保育園の年長児たちと交流会をしました。お兄さん・お姉さんとして会を進行し、年長児さんに優しく声をかける姿は、ふれあい班での「あこがれの6年生」の姿につながっていきます。今月は5年生も、4月から「あこがれの6年生」になるべく、意識して行動していく時期です。

「書きぞめ」の文字は、学年で同じ文章や文字を書いています一つとして同じ作品はなく、子どもたち一人一人の個性が表れています。一つ上の学年に向けて、集団として共に高め合うことが期待されるこの時期、子ども一人一人の持ち味を大事にしながら、みんなで「春」に向かって共に成長していきます。